

コースコード：DO-SREF

税込価格：198,000円 (税抜価格：180,000円)

日数：2日間

受講対象者

SRE Foundationコースの対象者は、以下のようなプロフェッショナルです。

信頼性向上への取り組みを始めた方、または主導している方
現代のITリーダーシップや組織変革のアプローチに興味のある方
ビジネスマネージャー
ビジネス・ステークホルダー
チェンジエージェント
コンサルタント
DevOpsプラクティショナー
ITディレクター
ITマネージャー
ITチームリーダー
プロダクトオーナー
スクラムマスター
ソフトウェア・エンジニア
サイト・リライアビリティ・エンジニア
システムインテグレーター
ツール提供者

コース概要

本コースは、組織が重要なサービスを確実かつ経済的に拡張するための原則と実践を紹介します。サイト・リライアビリティの側面を導入するには、組織の再編成、エンジニアリングおよび自動化への新たな取り組み、そしてさまざまな新しい作業パラダイムの採用が必要です。

本コースでは、SREの進化とその将来的な方向性に焦点を当て、信頼性と安定性に関わる組織全体の人々を巻き込むための実践、手法、ツールを、実際のシナリオやケースストーリーを用いて習得します。このコースを修了すると、参加者は、サービスレベル目標(SLO)の理解、設定、追跡など、会社に戻ってから活用できる具体的な成果を得ることができます。

このコースは、SREの主要な情報源を活用し、SRE分野のオピニオンリーダーと協力し、SREを採用している組織と協力して実際のベストプラクティスを抽出することで開発され、SREの採用を開始するために必要な主要な原則と実践を学ぶことができるように設計されています。

このコースは、SRE Foundation認定試験を成功させるための学習者を位置づけています。

目的

SRE Foundationコースの学習目標には、以下の実践的な理解が含まれています。

SREの歴史とグーグルでの登場について
SREとDevOpsやその他の一般的なフレームワークとの相互関係
SREの基本理念
サービスレベル目標(SLO)とそのユーザーフォーカス
サービスレベルインジケータ(SLI)と現代のモニタリング事情
エラー予算とそれに伴うエラー予算ポリシー
労働と組織の生産性への影響
Toilをなくすためのいくつかの実践的なステップ



サービスの健全性を示すものとしての観測性
SREツール、自動化技術、セキュリティの重要性
アンチフラジリティ、失敗と失敗のテストに対する私たちのアプローチ
SRE導入がもたらす組織的なインパクト

アウトライン

コース紹介

コースゴール

コースアジェンダ

モジュール1：SREの原則と実践

Site Reliability Engineeringとは？

SREとDevOps：その違いとは？

SREの原則と実践

モジュール2：サービスレベル目標とエラー予算

サービスレベル目標(SLO)

エラー予算

エラー予算の方針

モジュール3:Toilの削減

Toilとは？

Toilはなぜ悪いのか？

Toilをどうするか

モジュール4：モニタリングとサービスレベル指標

サービスレベル指標(SLI)

モニタリング

観測性



モジュール 5: SRE ツールと自動化

自動化の定義

オートメーションフォーカス

自動化の種類の間層

セキュアオートメーション

自動化ツール

モジュール6 : アンチフラジリティと失敗からの学習

なぜ失敗から学ぶのか

アンチフラジリティのメリット

組織のバランスを変える

モジュール 7: SRE の組織的影響

企業がSREを導入する理由

SRE導入のパターン

オンコールの必需品

非の打ちどころのないポストモーテム

SREとスケール

Module 8: SREと、その他のフレームワーク、トレンド

SREと、その他のフレームワーク

未来の姿

その他の情報源

試験の準備

試験条件、問題の重み付け、用語のリスト

サンプル試験レビュー

